

平成30年度事務事業評価シート

取組みコード

22134

区分	補助金・交付金	担当課	環境課		作成日	平成30年5月8日	
事業名	猫不妊去勢手術費助成金		開始年度	平成元年度	予算科目	4.1.4.1.1	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第2部_安全で安心して暮らせるまちづくり	章	第2章_総合的な環境対策
節	第1節_環境対策の推進	基本施策	3_環境美化等意識の普及・啓発
取組みの基本方向		(4)動物愛護思想の普及、ペット飼い主への指導	
根拠法令等	(参考)愛川町猫不妊・去勢手術費助成要綱		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	飼い猫に対する不妊・去勢手術を普及し、野良猫、捨て猫等増加及び猫による被害を防止するとともに、動物愛護思想の普及等に繋げる。		
内容・方法 (何を行っているのか)	猫の不妊・去勢手術を行った飼い主に対し、手術費用の一部を助成(助成限度額 不妊:1頭につき 5,000円、去勢:1頭につき3,000円)。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名			基準年度	平成34年度	
		『環境対策の推進』について「満足」と感じる住民の割合			33.6%	46.0%	
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		猫に起因する苦情件数の減少					
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成27年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
猫に関する苦情件数	減	猫の不妊・去勢手術による苦情件数の減少効果	計画値		28.0	21.0	8.0
			実績値(見込値)	28.0	21.0	8.0	8.0
			達成度※自動計算		133.3	262.5	
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		不妊・去勢手術を実施している猫の数を増やす。					
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度
助成件数	増	猫の不妊・去勢手術を実施した者への助成件数	計画値		150.0	185.0	213.0
			実績値(見込値)		234.0	237.0	213.0
			達成度※自動計算		156.0	128.1	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年)

8,300,000

年 度		基準年度(決算) (平成27年度)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算見込)	平成30年度(予算)
(A)事業費(円)		967,000	964,000	991,000	893,000
(B)概算職員数(人)		0.150	0.150	0.150	0.150
(C)=(B)×(E) 人件費(円) ※自動計算		1,245,000	1,245,000	1,245,000	1,245,000
(D)=(A)+(C) 総事業費(円)※自動計算		2,212,000	2,209,000	2,236,000	2,138,000
単位当たりコスト※自動計算		79,000.0	105,190.5	279,500.0	267,250.0
財源内訳 (円)	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源※自動計算	2,212,000	2,209,000	2,236,000	2,138,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な事業である		
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成29年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増≦成果アップ	B
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善の余地がある	

5 特記事項

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	全国的に猫の頭数が増加傾向にあり、この制度がない場合、野良猫が増加するとともに、苦情件数も増加することが想定されるため。
今後の方向性	本補助制度活用により猫の頭数が抑制され、苦情件数が年々減少となっている。 また、この制度がなくなった場合、野良猫や捨て猫が増え、車にはねられる等の事故及びこれに伴う職員対応も増加することが考えられることから、引き続き補助を行う必要があると思われる。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	改善
今後の方向性に係る意見等	実施事業の必要性は高いが、補助金額は定額補助となっており、申請者一人あたりの助成上限金額も設定していないため、受益者負担の観点から見直しを行うべきである。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	現状維持
今後の方向性に係る意見等	本制度は動物愛護精神の醸成に繋がるだけでなく、苦情や事故減少の一助となっており、社会的に有用な事業であることから、現状制度のまま継続して実施するべきである。

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	現状維持
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施する。